



菅田進学塾グループ（株式会社 ジャスマック）
千葉県千葉市

清水 貫

代表取締役

菅田進学塾グループ
菅田進学塾
菅田進学塾 ism
菅田進学塾 sirius
菅田進学塾 premium / 東進衛星予備校
東進中学 NET

不確定な社会変動や考え方の変化に 素早い適応力が求められている

さまざまな業種・業界の方々とお話しする機会をいただくと、「少子化で学習塾はたいへんな状況でしょう」と皆さんが必ずおっしゃいます。私はこの言葉に少なからず違和感を覚えます。深刻な状況に直面しているのは、子どもを顧客とする塾業界だけでなく、すべての業種だと考えるからです。確かにコロナ禍の出生率の急減は想定外でしたが、少子化の影響については数十年前から叫ばれており、ある意味で想定可能な環境変化だと言えます。しかし、いま私たちが直面してい

るのは、日本の人口減少です。すなわち、子どもの数の減少以上に社会全体で多くの問題をはらんでいることを認識しなければなりません。労働人口の減少は日本中に影響をもたらす。都市部への人口集中が加速する面も看過できるものではありません。言うまでもなく、人口減少は採用の課題に直結します。教育においては、教員養成課程で教員志望者が急減していることにも私は強い危機感を抱いています。ある大学の教育学部の先生によると、10人中7人が保育、2人が

養護教諭を目指し、教員志望の学生は1人いるかどうか、という状況だそうです。これは教員に対する評価の低下を示しているとともに、教育に対する考え

方の変化が表れているとも言えるかもしれません。さらに、大学入試制度改革

革、指導要領の改訂など、教育の自身自体もいまままに変わろうとしています。考え方そのものに変化が起き、一体どこに向かうのかはまったく予測不可能です。こうした不確定な社会変動に対して求められているのは、素早く適応できる能力だと感じています。

人財が成長し活躍できる場として 組織の在り方を追求していきたい

こうした社会情勢の中で問われるのは、人財を大切に経営だと考えています。高邁な志を持つ人がやりがいを持って働ける働きやすさや、安心して続けられる環境を提供することに他なりません。やりがいに満ちた人が明

るく楽しく創意工夫しながら努力できる場を、いかに提供できるかがすべてと言っても過言ではないと思います。社員が活躍できるようにするためには会社はどうあるべきなのかを考え、彼らが成長できる場として組織

人財を重んじる経営が問われるいま、 筋肉質に鍛える組織づくりを強化して 「知」の体験の素晴らしさを子どももたちに

の在り方を追求していくことを最大のテーマに私自身も掲げています。そのためには、しくみと人の成長が両輪となります。

予測不可能な社会において、私たち誉田進学塾グループのようにリソースが決して多くはない規模の学習塾では、自力で方向性を探るためにさまざまな実験を試みる余裕がないのが現状です。例えば、AIを搭載しているからといって優れた教材だとは限りません。

創業者が民間教育最高功労賞を受賞 改めて民間教育の理想を目指す決意

昨年、創業者である母・清水妙子氏が日本民間教育大賞 民間教育最高功労賞を受賞させていただきました。おかげさまで、93歳で元気に過ごしております。この栄誉に恥じぬことのないように、改めて民間教育としての私たちの理想を目指す決意で臨んでまいり

ます。まだ技術が中間的な状態で、それを利用するには機が熟していないと捉えています。いまそこに無駄な労力を費やすよりも、いまこそ取り入れるべきだと判断した時にすぐさま動けるように構えておきたいと思っています。方向性が見えてきた時に迅速に対応できるように、組織を鍛えていくしかないのです。2024年は、まさに「筋肉質の組織づくり」を目指して取り組んでいきます。

ます。

46年前の創業時の折込チラシには、昭和53年9月26日の日付が刻まれています。実家に一枚だけ残っていたそのチラシの一節に、「純粹に勉強のみに集中できる場こそ塾」「知識欲旺盛な青少年に培うべき」というフレーズ

がありました。これこそが、民間教育の本質だと感じています。

昔を振り返っているうちに、1つ思い出したことがあります。私は小学校5・6年生の頃に、仲の良い友人と二緒にバスを乗り継いで塾に通っていました。彼はいつもバスが来るまでの待ち時間や乗車中に、「これ解ける？」と算数の問題を投げかけてくるのです。私はパズルやクイズを解き明かすときのようにその時間がたまらなく楽しかったことを鮮明に記憶しています。のちに中学入試の問題だったと知るのですが、理数系が好きになった原体験とも言えます。いまでも初めて見た算数の問題に出会うと、その頃のようにワクワクします。

結局のところ、勉強の本質とはそういう体験なのではないでしょうか。受験教育に携わる中で、学習塾は決してこれを忘れてはならないと思うのです。勉強を、何かを手に入れるために我慢する単なる難行苦行にし

てはいけません。もちろん、困難を乗り越える経験も大切です。しかしながら、それは学問の学び以外でも体験できること。学ぶことでしか得られない「知」の刺激こそが、勉強の本質です。

学ぶことが好きだという気持ちを見失わせることなく、受験を通してこそわかる考えることの楽しさや「知」の素晴らしさを体験させたい。「難しいから面白い」「解けると嬉しい」といった体験を次世代の子どもたちにも伝えていくことが塾のあるべき姿だと思います。

民間教育は誇るべき素晴らしい仕事です。私はその可能性を信じています。同じ業界の皆さまと切磋琢磨しながら、教育に人生を捧げたいという志を持った人たちが集い活躍できるように業界にしたいと切に願っています。微力ではありますが、社員たちとともに明るく前向きに、そして楽しく頑張ります。